

平成23年度 傾斜的研究費（全学分）学長裁量枠 成果報告書

研究費区分	②大都市問題解決拠点形成				
研究代表者所属	人文・社会系	フリガナ 研究代表者氏名	イトウ マコト 伊藤眞	職	教授
研究分担者所属	人文・社会系	研究分担者氏名	何 彬	職	教授
	OU 身体健康科学分野		篠田粧子		教授
	人文・社会系		高桑史子		教授
	人文・社会系		鄭 大均		教授
	中央大学総合政策学部		宮本 勝		教授
	人文・社会系		綾部真雄		准教授
	人文・社会系		石田慎一郎		准教授
	OU 日本語教育分野		大久保明男		准教授
	人文・社会系		丹野清人		准教授
	人文・社会系		澤井充生		助教

研究課題名	多文化都市と新相互行為圏（NIZ）の形成 ——新しい「国際移動研究センター」構築にむけた研究——
研究実績の概要（600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。）	
<p>① 全体会議：5月12日に、本研究プロジェクトの代表者・分担者による昨年度の成果報告会および研究会を実施し、本年度のプロジェクト全体の方針と研究班ごとの具体的計画を確認した。</p> <p>② ワークショップ：6月17日にロンドン大学東洋アフリカ学院(SOAS)のヴェルナー・メンスキー教授を招き、「イギリスの裁判所におけるイスラーム法」というテーマで講演会を行った（企画：石田慎一郎准教授）。同講演会では、イギリスにおける移民・文化的マイノリティと法、とりわけイギリス公式法におけるイスラーム法の扱いをめぐる諸問題が考察され、講演後の討論会では参加者との間で活発な意見交換が行われた。</p> <p>③ 研究会：7月27日に公開研究会を開催し、千葉大学助教・福田友子氏がパキスタン起業家による中古車販売業とそのネットワークについての報告を行った。同研究会においてグローバルに展開するエスニック・ビジネスに関する知見を深め、エスニックグループと職業集団との関係性が議論された。</p> <p>④ 調査研究：研究代表者・分担者は、インタビュー調査とアンケート調査の手法により、日本国内における移民の生活実態に関する調査に着手した。一連の調査研究には、本学の大学院生および学外の専門家が積極的に参加した。これらの調査研究から、さらなる個別データの充実と本プロジェクトの各データを集積するデータベース構築が必要であることがわかった。</p> <p>⑤ ウェブサイトの充実：本調査研究の成果をひろく一般に開示するためのウェブサイトが開設され、それぞれの研究グループごとに調査データが公開された。</p> <p>⑥ ポスター発表：以上の研究成果は、10月25日～27日開催の研究教育交流会においても報告されている。平成23年度は調査データの充実重点が置かれたが、平成24年度は分担者各自の調査研究と全体研究会とのデータの連携を強化し、国際移動研究センター構築に向け準備していく予定である。</p>	

平成23年度 傾斜的研究費（全学分）学長裁量枠 成果報告書

学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）
<p>1. <u>Ito, Makoto</u> "Indonesian Domestic Workers are resisting: In the case of Hong Kong", presentation, (Society for East Asian Anthropology Meeting, August 2, 2011, Jinsudang, South Korea).</p> <p>2. 鄭大均「戦後日本人の韓国観」、『戦後における日本人の韓国認識』東国大学校日本学研究所国際シンポジウム、口頭発表。（2011年6月25日）</p> <p>3. 綾部真雄「支援と時間—タイ山地民リスの文化振興活動への段階的参与の経験から」、『グローバル支援の時代におけるボランティア—東南アジアの現場から考える』機関研究「支援の人類学」国際シンポジウム、口頭発表。（国立民族学博物館、2011年11月）</p> <p>4. 丹野清人「報告：外国人住民の労働環境への影響について」、『フォーラム「神奈川の外国人コミュニティのこれから」～東日本大震災と多文化共生の地域づくり』、口頭発表。（神奈川韓国会館、2011年5月）</p>
論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）
<p>1. 伊藤眞「シンガポールにおける高齢者と外国人家事労働者」、pp. 6-16, 伊藤眞編『東アジアにおける高齢者のセーフティネットワーク構築に向けての社会人類学的研究（その2）』42p. 2011年3月、首都大学東京。</p> <p>2. 伊藤眞「家の連続性と不連続性」小池誠・信田敏宏編『家をつなぐ人類学』、風響社、近刊。</p> <p>3. 高桑史子「海村に生きる女性たち：女のしごと、男のしごと」窪川かおる編『海のプロフェッショナル 2』、東海大学出版会、2012年3月出版予定。</p> <p>4. 鄭大均『姜尚中を批判する』飛鳥新社、2011年。</p> <p>5. 鄭大均「在日コリアンの現住所」、『海外事情』、3月号、pp. 29-40、2011年。</p> <p>6. 鄭大均「在日コリアン・犠牲者として語られることの意味」、『日本學』、32輯、2011年。</p> <p>7. 何彬「文化遺産を有効的に保存する方法—日本端午の民俗地図を例に」、『中国端午文化の魂脈を求め—中国端午習俗国際シンポジウム論文選集』、浙江出版社、2011年。</p> <p>8. 何彬「日本民俗誌概観」、中央民族大学出版の民俗誌論文集に所収、2011年。</p> <p>9. 丹野清人「日系人の受け入れからみえてくる日本国籍の境界—最初の日本人に連なることの意味を考える—」、『社会人類学年報』、37号、2012年12月出版予定。</p> <p>10. 綾部真雄「『人間の安全保障』とアイデンティティー—タイ北部山地民の国籍問題をめぐる2つのコンテクストから—」、遠藤誠治編『アジア太平洋の安全保障と地域秩序の再構築—周辺からの視点—（仮）』、有信堂、近刊。</p> <p>11. 綾部真雄編『私と世界—6つのテーマと12の視点』、メディア総合研究所、2011年。</p> <p>12. 石田慎一郎「序論 オルタナティブ・ジャスティスとは何か」、『ケニア中央高地における兄弟分の役割』、「呼応するオルタナティブ」石田慎一郎編『オルタナティブ・ジャスティス：新しい〈法と社会〉への批判的考察』大阪大学出版会、2011年。</p> <p>13. ローレンス・ローゼン著、角田猛之・石田慎一郎監訳、『文化としての法：人類学・法学からの誘い』福村出版、2011年。</p> <p>14. 大久保明男「特集論考 満洲国の中国人作家—彼らは何を描き、いかに体制と戦ったのか。」、『歴史読本』、56巻9号、pp. 200-205、2011年。</p> <p>15. 澤井充生「中華人民共和国の『宗教団体』に関する一考察—イスラーム教協会の事例』、『人文学報』、438号、pp. 35-61、2011年。</p> <p>16. ヴェルナー・メンスキー「イギリスの裁判所におけるイスラーム法—法の多元性をめぐる無知と無視について」（石田慎一郎訳）、『マイノリティ研究』、6号、pp. 27-49、2012年。</p>
科学研究費補助金への応募状況、採択状況
<p>1. 高桑史子 科学研究費基盤研究C「過疎高齢海村・山村における村落解体阻止と脆弱性克服に関する社会人類学的研究」、研究代表者、平成23年度～25年度採択。</p> <p>2. 篠田粧子 挑戦的萌芽研究「鉄欠乏で惹起される小腸粘膜のフェリチン非依存的抗酸化メカニズムの解明」、研究代表者、平成23年度～25年度（予定）採択。</p>
国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況
その他社会貢献 [公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]
<p>1. <u>Ito, Makoto</u> "Tenaga Kerja Wanita di Hong Kong", lecture, (Universitas Pendidikan Indonesia, Bandung, Indonesia, November 1, 2011).（「香港におけるインドネシア人女性労働者」、講演、インドネシア教育大学、バンドン、11月1日）</p> <p>2. <u>Ito, Makoto</u> "Pelajaran dari Bencana Alam dari Jepang", lecture, (Universitas Pendidikan Indonesia, Bandung, Indonesia, November 1, 2011).（「日本の自然災害から学ぶ」、講演、インドネシア教育大学、バンドン、11月1日）</p> <p>3. 中島マリン・綾部真雄「なるほど、そうだったのか—タイのしきたり」、『ASEAN検定セミナー』、対談。（リクルートGINZAビル、2011年2月）</p> <p>4. 丹野清人『2010年度女性の家サーラー公開セミナー「帰国した日系人を追って』』、講師。（かながわ県民サポートセンター、2011年3月25日）</p>

平成 23 年度 傾斜的研究費（全学分）学長裁量枠 成果報告書

研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況					
工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類・番号	出願年月日	取得年月日
研究分担額					
研究代表者・分担者名	所属			金額（円）	